

平成 16 年度前期
A 群講義科目
「学生による授業評価」
報 告 書

京都大学大学院人間・環境学研究科全学共通教育実施委員会・文系群会
京都大学高等教育研究開発推進機構

目 次

はじめに.....	1
第1章 調査の概要.....	2
1 調査方法・質問内容.....	2
2 回答者の属性.....	3
3 集計と情報の管理.....	5
4 本報告書の構成.....	5
第2章 A群科目全体についての学生の意見.....	6
1 総合的評価.....	6
2 項目別集計.....	7
2.1 肯定的評価.....	8
(a) 興味深い講義が多い (22件).....	8
(b) 内容の多様性の評価 (7件).....	9
(c) その他の肯定的評価 (9件).....	10
2.2 批判的評価.....	11
(a) 板書に関する不満 (14件).....	11
(b) 説明がわかりにくい、抽象的すぎる (10件).....	12
(c) 試験・成績評価に関する不満・不安 (9件).....	13
(d) 制度・カリキュラムに関する不満 (9件).....	14
(e) 声が聞き取りにくい (8件).....	15
(f) 教員に熱意が感じられない (7件).....	16
(g) その他の問題の指摘 (27件).....	17
2.3 その他のコメント.....	19
(a) 授業の二極分化の指摘 (9件).....	19
(b) 学生側の問題の指摘 (7件).....	20
(c) その他の要望・コメント (18件).....	21
第3章 個々の授業に関する学生たちの意見.....	23
1 総合的評価.....	23
2 項目別集計.....	24
2.1 肯定的評価.....	25
(a) 講義内容が興味深い (61件).....	25
(b) 説明がわかりやすい (23件).....	27
(c) 雰囲気がいよい (教師の人柄、学問への態度に共感する) (17件).....	29
(d) 授業の進め方がよい (13件).....	30
(e) その他の肯定的評価 (9件).....	31
2.2 批判的評価.....	32
(a) 説明がわかりにくい、抽象的すぎる (22件).....	32
(b) 板書に関する不満 (18件).....	34
(c) 声が聞き取りにくい (16件).....	35
(d) 講義内容に関する不満 (8件).....	36
(e) 教室環境・設備に関する不満 (7件).....	37
(f) 試験・成績評価に関する不満・不安 (5件).....	38
(g) その他の問題点の指摘 (24件).....	38
2.3 その他の要望・コメント (11件).....	41
おわりに.....	43

巻末資料1：A群講義科目「学生による授業評価」協力のお願ひ

巻末資料2：平成16年度前期A群講義科目「学生による授業評価」調査票

はじめに

人間・環境学研究科全学共通教育実施委員会・文系群会（以下、「文系群会」と略）は、2004（平成16）年度前期に、A群講義科目についての「学生による授業評価」を実施した。この調査は、2003（平成15）年度前期に同じくA群講義科目を対象として行われた「学生による授業評価」（以下「前回調査」と略¹）、同年度後期にA群基礎ゼミナール系科目を対象として行われた「学生による授業評価」（以下「基礎ゼミ調査」と略²）に続くものであり、A群科目総体に対する学生の態度・意見を把握することを目的として、教養教育専門委員会および同A群科目部会の後援のもとにおこなわれたものである³。

今回の調査においてもこれまでと同様、主たる目的はA群科目総体に対する学生の率直な態度・意見を把握することであり、学生に個々の授業を採点・評価させるという（他大学での「学生による授業評価」でしばしばみられる）スタイルはとらなかった。その理由も、これまでと同様、学生の「生の声」を聞くことを通じて、A群科目の教育全体の現状と課題を明らかにしたいという一点に尽きる。こうしたわれわれの意図・目的をご理解いただいた上で、本報告書をお読みいただければ幸いである。

¹ 前回調査の報告書『A群科目に関する「学生による授業評価」報告書』（2004年2月）は、高等教育研究開発推進機構ホームページにおいて公開されている（<http://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/pdf/link/link0188.pdf>）。

² 基礎ゼミ調査の報告書は『平成15年度後期A群科目基礎ゼミナール「学生による授業評価」報告書』（2005年3月）として、発行済みである。

³ これらの調査の実施にいたるまでの経緯・背景については、詳しくは上記注1の前回調査報告書を参照されたいが、要点は次のとおりである。

2002（平成14）年11月に開催された「京都大学教養教育ワークショップ」において、総合人間学部および人間・環境学研究科のA群科目担当者と各部局代表者とのあいだでA群科目の理念や現状をめぐる活発な議論がおこなわれ、その結果、文系群会は自分たちに二つの課題が課せられていることを認識するに至った。一つは京都大学の教養教育に対する受講者（学生サイド）の態度・意見の把握であり、もう一つは、教養教育に関する文系群会全体（教員サイド）としての考えの提示である。

前者の課題へのアプローチとしてなされたのが、いうまでもなく前回および今回の調査「学生による授業評価」の試みであり、これは今後も継続して実施される予定である。

後者については、2004（平成16）年6月、文系群会の総意を示す文書として『教養教育に関する人間・環境学研究科・文系群会の考え』（<http://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/pdf/link/link0185.pdf>）が成立した。この文書は、A群科目における講義科目と基礎ゼミナール系科目という二つの形式の本質、および両者の関係について考える上で示唆的な内容を含んでいるので、本報告書においても、適宜参照することとしたい。

第1章 調査の概要

1 調査方法・質問内容

調査は2004（平成16）年度前期授業期間の最後の2週（2004年6月28日から7月9日まで）に実施した。調査方法および質問内容は前回調査と同様である。すなわち、実施に際しては、調査対象となった下記23科目（表1-1）の担当教員が授業時に調査票および依頼文を配布し、学生各自に持ち帰って記入してもらい、記入済み調査票を共通教育教務掛脇に設置したポストに投函してもらうという方式をとった（依頼文および調査票については、巻末資料1, 2を参照）。なお授業に出られなかった学生のため、調査票・依頼文の配布は共通教育教務掛の窓口でも行った。配布・回収をこのような方式にすると回収率は低くなることが予想されるが、その分内容の濃い回答が寄せられるのではないかと考え、この方式を採用した。

表1-1 調査を実施した科目・担当教員

系列	科目名	教員名（敬称略）
哲学・思想系	*倫理学基礎論Ⅰ	佐藤義之
	東洋社会思想史基礎論	西脇常記
歴史・文明系	日本史学基礎論	西山良平
	日本古代・中世政治文化論	元木泰雄
	アジア史基礎論	松浦 茂
	*西洋史学基礎論Ⅰ	川島昭夫
	現代文明総論A	佐伯啓思
芸術・言語文化系	国語国文学基礎論Ⅰ	島崎 健
	言学基礎論Ⅰ	内田賢徳
行動科学系	関係発達論の構築	鯨岡 峻
	グループ・ダイナミックス	杉万俊夫
	*社会学基礎論	高橋由典
	*社会学基礎論	吉田 純
地域・文化系	地域地理学の基礎	山田 誠
	生活環境構成論	西垣安比古
	社会人類学基礎論	菅原和孝
	文化人類学調査基礎論	福井勝義
社会科学系	社会統計論A	長屋政勝
	公共政策論ⅠA	足立幸男
	法学基礎論	西井正弘
	法学基礎論	西村 稔

なお、今回調査は前回調査を補完する位置づけにあるため、今回の調査実施科目は、なるべく前回調査と重ならないように配慮した。上記の*を付した4科目を除く19科目は、前回

調査において対象とならなかった科目である。その結果、前回調査と今回調査をあわせると、人間・環境学研究科文系群会所属教員が担当するA群基礎論系講義科目のほぼすべてをカバーすることができたことになる。

調査票には、受講している科目名・教員名、および自身の学部名・学年を最初に記入してもらったうえで、下記の二つの質問をした。

- I 現在受講している上の授業について、日頃考えていること、感じていることを自由に書いてください。
- II A群科目の授業全体について、考えていること、感じていることを自由に書いてください。

2 回答者の属性

有効回答数は122であり、残念ながら、前回調査の247からほぼ半減している。この減少の正確な原因は不明であるが、最近の授業評価等の調査の増加による、いわゆる学生の「アンケート疲れ」が背景にあるのかもしれない。

回答者の学部別構成をグラフにして示すと以下のようなになる(図1-1)。参考までに学生定員の学部別構成をも示すことにする(図1-2)。

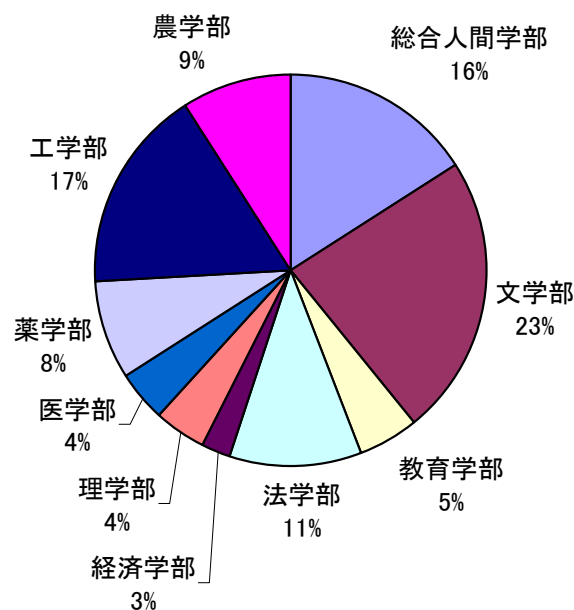


図1-1 回答者の所属学部の構成比

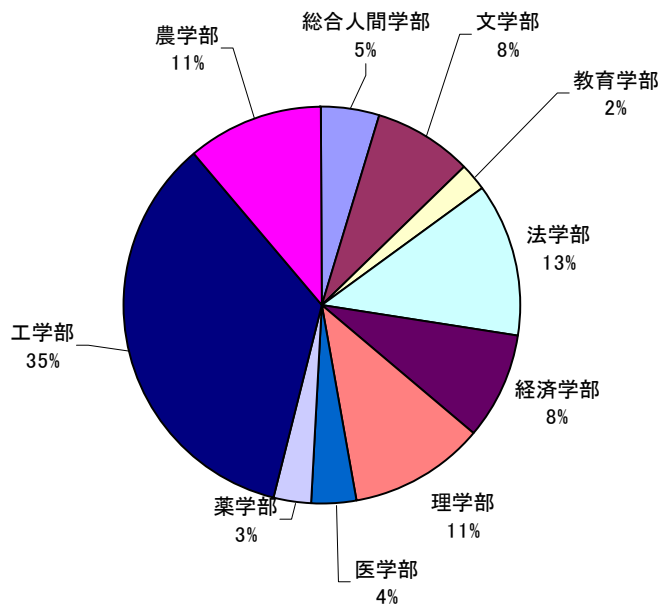


図 1 - 2 学生定員の学部別構成

グラフを見ると、回答者に若干の偏りはある。すなわち総合人間、文、教育、薬の各学部の回答者の比率は定員比に比して大きく、他方経済、理、工の各学部に関してはそれが逆になっている。また文系学部の比率が高い。ただこの偏りは調査結果の代表性を疑いうるほど大きいものとは言えないので、以下の記述においては無視してもかまわないだろう。

回答者の学年別構成は以下ようになっており（図 1 - 3）、1 回生が約 4 分の 3 を占めている。A 群科目の履修登録者全体の学年比（平成 16 年度前期において 1 回生は約 6 割）からすると若干 1 回生に偏っているが、そのことによる回答の偏りはないものと考えておきたい。

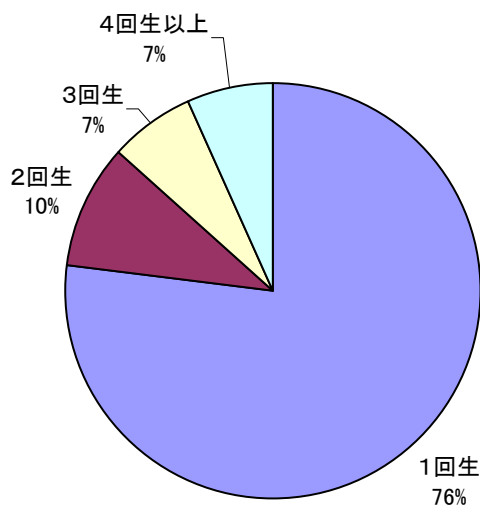


図 1 - 3 回答者の学年別構成

3 集計と情報の管理

今回の調査も自由回答方式を採用したので、集計にあたってはその方式の特性をできるだけ生かすようにした。すなわち、各学生の回答文をよく読み込んだ上で、比較的多くの回答に共通してみられる内容（たとえば、「講義内容が興味深い」「板書についての不満」など）を抽出し、それらの項目ごとに集計をおこなった。したがって多くの場合、一つの回答に複数の項目が該当することになった。質的なデータのとりまとめという事柄の性質上、客観性を確保するため、WG内で項目の抽出方法や分類・集計方法について討議するなど、特段の配慮をした。また回答には個々の授業・教員に関連する情報が多く含まれていたため、情報の管理には十分な注意を払った。

4 本報告書の構成

本報告書では、本調査の趣旨に沿って、調査票の順序とは逆に第2章でA群科目全体についての回答内容（問Ⅱ）を紹介し、第3章で個々の授業についての回答内容（問Ⅰ）を紹介していくことにしたい。紹介した回答内容は、それぞれの項目に属するものすべてではないが、学生の多様な意見をご覧いただけるよう、可能な限り多くの回答を掲載するように努めた。なお先述のように今回調査は前回調査を補完する位置づけにあり、得られた結論も基本的には前回調査と変わらなかったため、第2章、第3章それぞれのまとめは省略し、「おわりに」で簡潔に結論を述べることにしたい。

第2章 A群科目全体についての学生の意見

この章では、「A群科目の授業全体について、考えていること、感じていることを自由に書いてください。」（問Ⅱ）という問いに対する回答を紹介・検討していく。なお、この問いは、調査を実施した23科目のみならず、人間・環境学研究科以外の部局提供の科目や非常勤講師担当科目をも含めた、「A群科目の授業全体」についての意見を求めたものである。

1 総合的評価

最初に回答内容を、「A群科目全体についての総合的評価」という観点で大きく分類した結果を円グラフ（図2-1）で示した。見られるとおり、肯定的評価が2割強、両価的または中間的な評価が2割弱であるのに対し、批判的評価は半数近くもあり、相対的に多数を占める厳しい結果となった⁴。これは、第3章で述べる個々の授業についての評価においては肯定的評価が半数近くを占めているのとは対照的であり、自身の出席している授業については肯定的に評価しても、「A群科目全体」については批判的な見解をもつ学生がかなりいることをうかがわせる。

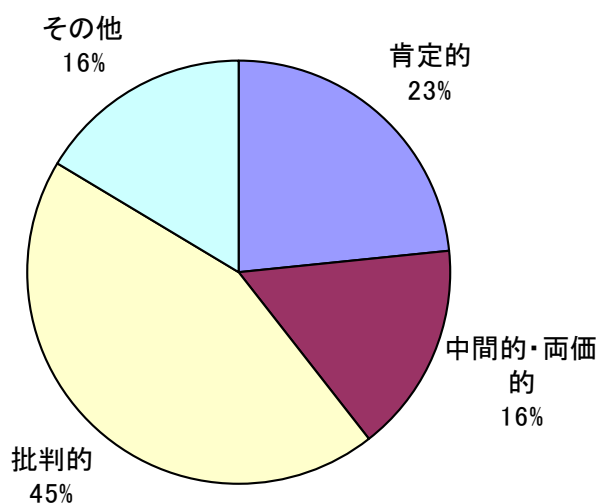


図2-1 問Ⅱの回答分布（総合的評価）

⁴ 問Ⅱについては、「協力をお願い」文の中で「自分の受講している複数の科目で回答を求められた人の場合、Ⅱはどれか一つの回答用紙における回答によって代表させても構いません」と注記したので、無答はこれに該当するものとみなし、集計に含めなかった。

2 項目別集計

次に、回答内容を項目別に整理したものをグラフ（図2-2）で示そう。数字は、回答の頻度を表す（第1章で述べたとおり、一人の回答を複数の項目にカウントしていることがある）。すなわち「興味深い講義が多い」が22となっているのは、回答者のうち22人が「興味深い講義が多い」という趣旨の回答をしているという意味である。なお、件数が5件に満たない項目は「その他」などにまとめた。

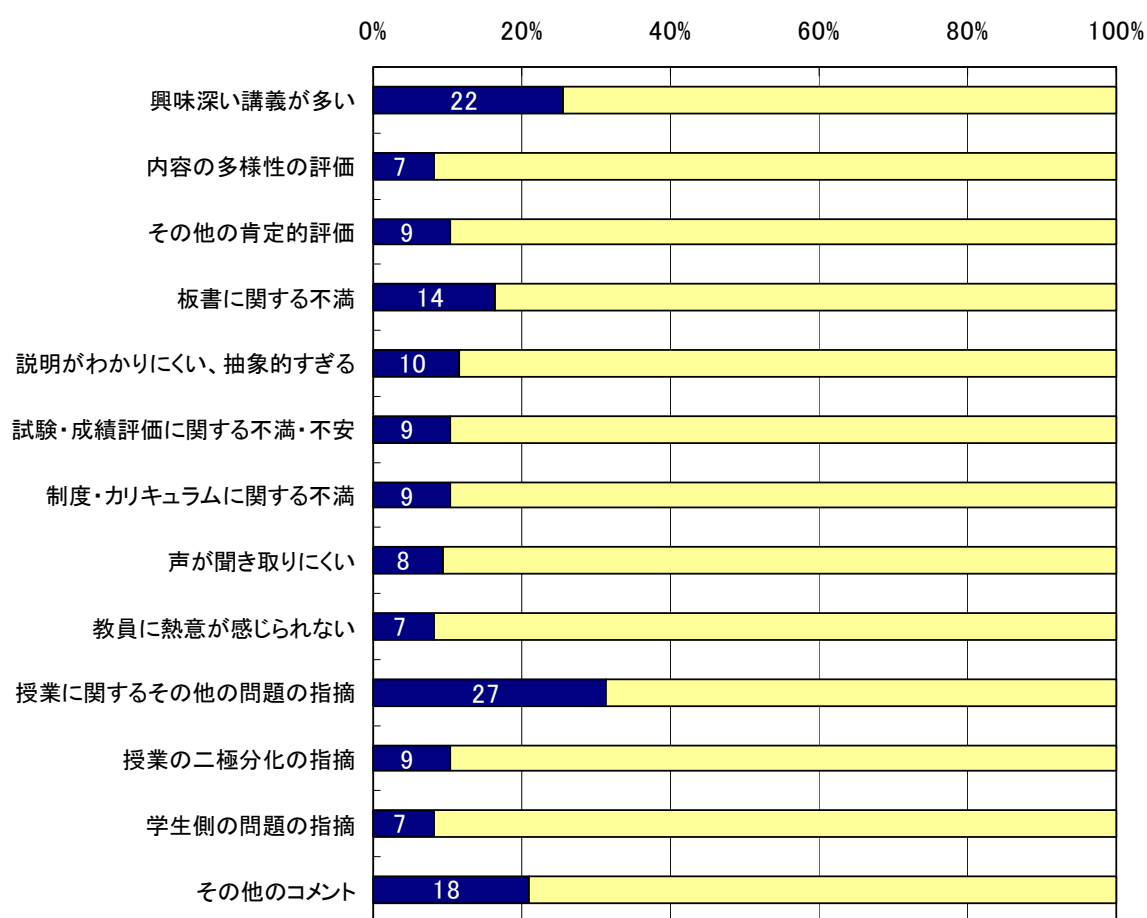


図2-2 問Ⅱの回答（項目別）

みられるとおり、肯定的な評価の大半が授業の内容に対するものであるのに対し、批判的な評価においては内容に関するものはごく少なく、板書に関する不満を筆頭に、方法的・技術的あるいは制度的な問題に関するものが大半であった。すなわち、多くの学生はA群科目の授業の内容については高く評価しているものの、授業の方法的・技術的側面、あるいはカ

リキュラムなどの制度的側面に不満を抱いているという状況がみてとれる。

以下、それぞれの項目ごとの回答例を、肯定的評価（2. 1）、批判的評価（2. 2）およびその他のコメント（2. 3）に大別し、原則として学生の記述そのままに紹介するとともに、それぞれの項目について若干のコメントを加えるという形式で進めていきたい。

2. 1 肯定的評価

(a) 興味深い講義が多い（22件）

「広く、教養を深めたいと考える者にとっては、非常に興味深い講義が多いと思います」[23]など、「興味深い講義が多い」という趣旨の回答が、肯定的評価の中では最も多数を占めた（各回答末尾の [] 内の数字は整理番号、以下同様）⁵。

- ▼面白い授業が多いと感じている。（工学部1回生） [2]
- ▼文系の私にとってはそれなりに面白いものが多いと思います（文学部1回生） [6]
- ▼自分の興味のある授業しか取っていないので、あたりまえですが、全て楽しく受講しています。（文学部1回生） [16]
- ▼考える由もなかったような、いろいろなことを研究時間を割いて講義してもらい、率直に有り難い。勉強とは主体性を持ってやらねばならないものであるから、講義に関しての注文など無い。（農学部1回生） [18]
- ▼全体的には、授業内容はどれもおもしろく、興味深いものばかりで、満足しています。（経済学部1回生） [22]
- ▼広く、教養を深めたいと考える者にとっては、非常に興味深い講義が多いと思います。（理学部4回生） [23]
- ▼A群には教授の趣味も少し入ったようなものもあり、おもしろいから必要だと思う。（理学部1回生） [25]
- ▼自分の興味のある科目を取れば、内容自体は面白いと思う。（工学部1回生） [36]

⁵ 回答者の学年については、4回生以上はすべて「4回生」と表記した。以下同様。

- ▼A群の授業には、興味のある物や、魅力のある先生がいらっしゃって、そのような授業は励みになります。(工学部1回生) [39]
- ▼今までの勉強とはかなり異なる内容の授業が多いので、興味がわく。(工学部1回生) [45]
- ▼個人的には好きな授業が多い。歴史や生態について興味があるので。3回生以上になると研究や専門が増え、文系科目に触れる機会もなくなるであろうから、一般教養でA群を勉強できるのは楽しい。(農学部1回生) [54]
- ▼全体的に見てA群の内容は層が厚いので、諸分野について学べる環境があると思うので、様々な視点が得られると思う。(文学部1回生) [65]
- ▼時々ふと何の役にも立たないような気がして、他に実用的な事を学ぶべきだろうか、と思うこともあるけれど、普段とは違った世界に入りかけることが出来て、面白いのならそれでもいいか、と思う。机上の空論に見えるような内容でも、考えるならば、別の視点を知ることができるので、その点では役に立っていると思う。(文学部1回生) [71]
- ▼自分の必要や興味から科目を選択しているので、内容自体はおもしろいものがほとんどです。(教育学部4回生) [79]
- ▼文系なので、興味ある授業はたくさんあります。(文学部1回生) [83]
- ▼理系の人間からしてみても興味を引かれることがあり、おもしろいと感じている。(工学部2回生) [96]
- ▼理系の僕にとってはまた違った視点を身につけるという点で重要なものだと思う。(総合人間学部3回生) [99]
- ▼興味をもって聞ける授業が多かったなので、よかったと思っています。(医学部1回生) [108]

(b) 内容の多様性の評価 (7件)

「様々な科目があつていい」[16]、「バリエーションが多いのはとても嬉しい」[24]など、A群科目の多様性それ自体を評価するコメントもみられた。こうした学生の意見は、「A群科

目の多様性は、学生たちの興味・関心の多様性に対応するもの⁶であるというA群科目教養教育の理念を裏づけるものといえよう。

- ▼シラバスを見ていると、様々な科目があつていいことだと思います。(文学部1回生) [16]
- ▼知識の幅を広げるという面からは良いことだと思う。(薬学部1回生) [19]
- ▼バリエーションが多いのはとても嬉しい(法学部1回生) [24]
- ▼広範囲にわたって学ぶことができ、いいと思う。ただ、約3カ月ではほんのわずかしか学べないのは残念だ。(教育学部1回生) [32]
- ▼様々な分野の講義があつて、自分の興味がある対象に直結する講義を履修選択することができ、一学生としてとても嬉しい。(医学部1回生) [90]
- ▼いろんな種類の授業があるので受けていておもしろい。(工学部1回生) [109]
- ▼様々な授業を提供してくださっていることは大変素晴らしいと思います。高校では学べなかった学問を多く学べることを嬉しく思っています。……今後も京大にふさわしい質の高い授業を行なってもらえるものと期待しています。(法学部1回生) [121]

(c) その他の肯定的評価 (9件)

その他の肯定的評価としては、下記のように様々なものがあつた。二人だけではあるが、[25][110]のように、自らの専門とは別に「教養」を得る科目」としてのA群科目の必要性を評価する理系学生がいるのは心強い。

- ▼全体的に、授業をしっかり聞くことができれば、理解できるものばかりだと思います。(医学部1回生) [13]
- ▼少なくとも1・2回生の間は必要だと思う。(3回生からは忙しくてとる暇がない。) B群ばかりやっても日々が単調になるが、A群という、少し異なった刺激を受けることで、B群とは違う事も考えるようになり、それが教養につながると思う。(理学部1回生) [25]

⁶ 前掲『教養教育に関する人間・環境学研究科・文系群会の考え』、12頁。

- ▼A群は内容が概念的なものや抽象的なものになることがどうしても多くなってしまいう運命にあるので、一度内容を見失うと、理解が大変になる部分もある。教員（その分野の専門家として）が、全体を見通して理解を助けるような講義をしているものは理解がしやすかった。（文学部1回生） [65]
- ▼分野が絞られた講義が多いのも、半年という期間で学ぶには丁度良いと思ったし、実際の講義を聞いて感じている。（医学部1回生） [90]
- ▼あまり興味のない分野の話でも、表面的な話を聞けるため、そのテーマ全体に親しむには良い機会であると思う。（文学部1回生） [105]
- ▼専門科目だけではなく、A群のように“教養”を得る科目も必要だと思います。（工学部1回生） [110]

2. 2 批判的評価

(a) 板書に関する不満 (14件)

すでにふれたように、批判的評価の大半は授業方法に関する方法的・技術的な問題を指摘したものであったが、その中でも最多数を占めたのは、板書に関する不満であった。そのほとんどが1回生であり、彼ら・彼女らが、前回調査でも指摘されたように、「ノートをとることは『板書された内容を写す』のと同義ではない」という「大学のカルチュア」になじんでいないことが、こうした不満の多さにつながったとも考えられる⁷。

- ▼最後に注文をつけたいのは、教室の後ろのほうでは明らかに黒板の字が見えないという授業があること、黒板に何を書いているのかわからない先生がいること、これらを改善してほしい。（工学部1回生） [2]
- ▼黒板に教授が書くものがかなり断片的で、後で見返してもほとんど意味が分からないものが多い。（農学部1回生） [7]
- ▼A群科目のほとんどが、黒板に書いてあることが理解しにくい。（薬学部1回生） [20]

⁷ 前掲『A群科目に関する「学生による授業評価」報告書』、62頁

- ▼パワーポイントを使うと、板書が取りにくい。(農学部1回生) [41]
- ▼私が入学翌日に受けた、とあるA群2つは、いずれも先生が板書もせずにゴニョゴニョとしゃべっているだけ、これではメモも取れない!というものでした。……B群の先生方はどの先生も板書やパワーポイントなどを使ってわかりやすく教えて下さっていると思います。(農学部1回生) [53]
- ▼あともう少し、板書をしてくれた方が授業を受けやすいと思う。(法学部1回生) [76]
- ▼字が汚い教官が多過ぎる。板書はみんなに見せるために書いているはずだから、読めるくらいには書いてほしい。(教育学部1回生) [81]
- ▼ただ、やはり板書はもう少しまとめてほしいです。(文学部1回生) [83]
- ▼黒板を復習しやすいようにかいてほしい。……関係をわかりやすく説明したプリントや教材があるとよい。(薬学部1回生) [85]

(b) 説明がわかりにくい、抽象的すぎる (10件)

批判的評価の中で2番目に多かったのは、教師の「説明がわかりにくい」「抽象的すぎる」という趣旨のものであった。この点も、高校と大学とのカルチュラル・ギャップにある程度起因していると考えられるが、こうした意見が一定数存在すること自体は、事実としてわれわれも心に留めるべきであろう。

- ▼A群科目というより、人文科学系科目の授業において、先生の考えを難しい専門用語を用いてひたすらしゃべることに終始し、生徒に上手く伝わっていない、言葉は悪いが、自己満足に終わってしまっているのではないかと思えるものが多い気がする。こういった点が「A群嫌い」を生み出す要因となっているのではないだろうか。(文学部1回生) [3]
- ▼たまにひたすら教官が話しつづけ、考える暇のない授業とかがあるので、そこを少し考慮してほしい。また、前提知識を必要とするものは、はじめにその旨を伝えてほしい。(文学部1回生) [6]
- ▼自己満足のような、専門的でよく分からない授業が多いです。(総合人間学部1回生) [38]

- ▼授業のための前提知識やその講義の学問的位置付け等、基本的なことを初めの方できちんと紹介するようにはしてほしかったです。先生ご自身が、当然のこととして話されていてもわからないことも多いです。あと、授業（他の講義）相互の関連性をわかりやすくして、体系的に履修できるようにしてほしいです。（総合人間学部4回生） [57]
- ▼A群科目は一方的で抽象的な授業が多く、集中力がもたないものが多いです。（文学部1回生） [59]
- ▼概念的に難しい科目の講義が少々分かりにくいように感じる。京大が自学自習をモットーとしているのは分かっているが、「講師」と名乗るからには、もう少し教え方の向上を目指してほしい。（工学部1回生） [70]
- ▼授業の大半が抽象的なものである。だから結局何が言いたかったのかわからないという授業も多々ある。いかに抽象的とはいえ、例えばガイダンスの時に「これとこれとこれについて話していきます」としっかり項目を出してくれると有難い。特に毎授業の始めに言ってくれればこっちも目標が出来て、その授業を聞きやすくなる。できればその日のテーマだけでも板書してほしい。途中で忘れそうになるから。それだけでもずいぶん違うのではないか。やはり理系の人にとってはA群は聞きづらく、敬遠されがちでもあるようだ。（文学部1回生） [88]

(c) 試験・成績評価に関する不満・不安（9件）

試験や成績評価に関する不満・不安を述べた回答が、批判的評価の中で第3番目に多かった。出席については、「もっと出席を重視してほしい」[38]という声がある一方で、出席をとることに意味がないとする意見[48]もあった。また、いわゆる「楽勝科目」の存在を批判的に捉える意見[100][107]もあった。

- ▼どうしても、テストのことが不安です。（経済学部1回生） [22]
- ▼単位の認定は、試験形式よりもレポート形式のほうが良い様に思われる。（工学部1回生） [26]
- ▼もっと出席を重視してほしいです。（総合人間学部1回生） [38]

- ▼どんなテストになるのかが心配。(工学部1回生) [45]
- ▼毎回、紙を回して出席をとっている授業があるが、名前だけ書いて教室から出ていったり、友人に頼んでおいて書いておいてもらったりする学生も残念ながら一部見られるため、そんなに意味がないように思える。(農学部1回生) [48]
- ▼新入生なので、試験の感じがよく分からず不安です。どのようなことを覚えておけばいいのか、どのくらい勉強すればどのような成績がつくのか…など、教えてほしいです。去年の結果をまとめたものは配布してほしいです。(文学部1回生) [83]
- ▼試験にされてもノートの何が出るのか想像もつかない授業が多い(総合人間学部2回生) [92]
- ▼何となく難しそうで受講するのに慎重になる。長いレポートを書かされたり、理解しにくい超専門的な話をしそうなイメージがある。実際、そういう授業があるらしいことは友人に聞いている。逆に1回も出なくても全員に単位を出すと、初回に言った先生もいるらしい。A群内で難易度が大きく異なるものがあるのは問題だと思う。調整してもらえたらと期待しています。(工学部1回生) [100]
- ▼「教科書やノート持ち込みOKで、授業に出ている人なら9割受かる」というA群の試験を先日受けた。教科書を授業でほとんど使っていないので買っていなかったのだが、やっぱり教科書から出題されそうと思い、試験直前に¥2500ほどの教科書を買った。試験は実際教科書見たら分かる易しいもので、試験を受けながら「¥2500で、私は単位を買ったも同然だなあ」と思わずにはいられなかった。学生にとって成績評価の方法は楽であるにこしたことはないし、私だって難しい試験とかレポートばかりやったら嫌です。でも授業を受けて、勉強して、それが生かされるような成績評価の方法にしないと、何のために受験勉強して学費払って大学来てるのか分かりません。(文学部1回生) [107]

(d) 制度・カリキュラムに関する不満 (9件)

制度やカリキュラムに関する不満が、試験や成績評価に関する不満・不安と同数で、批判的評価の第3位を占めた。前回調査でも指摘された、理系学生の一部にみられるA群科目の不本意履修(「単位を取るために仕方なく空いている時間に入れる」)の問題が⁸、ここでも[23][40]などの回答にうかがわれる。

⁸ 前掲『A群科目に関する「学生による授業評価」報告書』、17頁以下

- ▼専門的な学習をしたいと考える学生（特に理系）にとっては、少々、面倒なカリキュラムだと思います。ただし、広く、教養を深めたいと考える者にとっては、非常に興味深い講義が多いと思います。もっとも、大学という場が、専門的な教育を主とするものなので、現在の状態が正しいかどうかは分かりません。（理学部 4 回生） [23]
- ▼約 3 カ月ではほんのわずかしが学べないのは残念だ。（教育学部 1 回生） [32]
- ▼A 群と B 群と分けることについて疑問に思う。例えば、A 群の論理学基礎論等は、A 群というよりは、むしろ、B 群のように思える。（法学部 1 回生） [37]
- ▼工学部の自分からしてみると、制限でしかない。（工学部 1 回生） [40]
- ▼A 群 20 単位を集めるのは大変と思った。（医学部 1 回生） [43]
- ▼授業（他の講義）相互の関連性をわかりやすくして、体系的に履修できるようにしてほしいです。（総合人間学部 4 回生） [57]
- ▼興味のある講義が時間がかぶっているせいで、取れないのが悔しい。（文学部 1 回生） [104]

(e) 声が聞き取りにくい (8 件)

ついでに、やはり授業に関する方法的・技術的な問題として、「声が聞き取りにくい」という不満が批判的評価の第 5 位を占めた。これは板書以上に純技術的な問題であり、マイクの設備の充実およびその教員への周知によって解決されるべきものであろう。

- ▼マイクを使っているにもかかわらず声が小さく聞き取りにくい授業が多いので、もっとはっきりとしゃべってほしい。（薬学部 1 回生） [20]
- ▼声の聞き取りにくい教官が多い。（教育学部 1 回生） [81]
- ▼たまに大教室&大人数なのにマイクを使わずに講義をする先生がいますが、後ろの方にはかなり聞こえづらいのでマイクを使ってほしい。（文学部 1 回生） [84]
- ▼はっきりとした声でわかりやすく説明してほしい。（薬学部 1 回生） [85]
- ▼声がよく聞こえない教員が多いのが悲しい。（工学部 2 回生） [96]

▼教授の言っていることが聞きづらかったり、板書が見えなかったり、もっと授業の仕方を工夫してもらえたら、もっと学生も来るのでは、と思う。(総合人間学部2回生) [101]

▼はっきりと大きな声で話す、わかりやすい字で書くということがなっていない教官もいるので、せめてそれだけはちゃんとして欲しい。(文学部1回生) [111]

(f) 教員に熱意が感じられない (7件)

批判的評価の第6位として、それほど多くはないが、「教員に熱意が感じられない授業がある」という趣旨の回答もあった。

▼教員の熱意が感じられる授業もあるが、教科書をただ棒読みしたり、無駄な話(授業に無関係な話)が多い等、学生の貴重な勉学の時間を無駄にし、高い学習意欲を全く削いでしまう様な授業が多く見られたのには、大変失望させられた。また、そこまではいかなくとも、教員の授業技術が極めて稚拙なものもかなり多いと思う、だから、教員間で授業の手法を教え合う様な機会、あるいは授業技術を研究する様な機関が必要だと考える。(総合人間学部1回生) [9]

▼もっと授業に熱意をもって取り組んでほしい。生徒が来ないからといって教え方をおろそかにしては、よけい生徒が来なくなり、悪循環。大学の授業、特に般教はいつでもいいという学生の考えが変わるような授業をしてほしい。(薬学部1回生) [20]

▼内容が難しいのは良い。けれど、喋り方、黒板の書き方、レジュメの作り方など、工夫すればもっと面白いだろうと思う授業は多い。つまらないと知ってか知らずか、ずっと同じ調子で講義して、改善しようとしていない教授の授業は本当に受けたくない。逆に面白い授業は後期も続けて取りたいと思う。(法学部1回生) [34]

▼話を聞くだけ、ノートを取るだけで授業が終わっている。教員の自己満足で終わっている気がする。レジュメを配るのはいいけれど、レジュメをただ読むのはやめてほしい。(教育学部1回生) [50]

▼一部の授業では、ひたすら教科書の解説しかしないもの、教授のやる気がまったくないのがあきらかに伝わってくるもの、などもあり、その辺りもどうなんだろうとは思いますが、大学とは自分で勉強する所とよく言われますが、それにしても、もう少し親切でわかりやすい講義をしてほしいと思うのです。(文学部1回生) [74]

(g) その他の問題の指摘 (27件)

その他の批判的解答や問題点の指摘は、教室環境・設備に関する不満、シラバスに関する問題の指摘、休講・遅刻に関する指摘など多岐にわたる。「興味をもてない講義が多い」という意見もあったが3件だけであり、肯定的評価の中で「興味深い講義が多い」という回答が22件あり1位を占めたのとは対照的である。なお、「全体的に進度が遅い」とする意見[79]と、正反対に「進度が早い」という意見[113]があり、学生の受け止め方も個人ごとに多様であることがうかがわれる。

【興味をもてない講義が多い】

- ▼面白い(興味深い)講義が少なく、大学側としては求人難でしょうが、まじめな一学生としても、求人難です。これでは、講義に出ない人が多いわけです。前のめりになって講義に出られるような、熱い先生を待っています。(総合人間学部1回生) [38]
- ▼一部を除いては、つまらない授業が多いので、単位さえくれればそれでよい。(文学部2回生) [52]
- ▼面白いものと、つまらなすぎるものとのギャップがすさまじい。後者が多いように感じられ、残念。(総合人間学部2回生) [101]

【教室環境・設備に関する不満】

- ▼受講人数が多い。(理学部1回生) [12]
- ▼空調が寒くて集中できないことがあるので、せめて風が直接当たらないようにしてほしい。(文学部1回生) [84]
- ▼部屋の大きさに対して人が多い。(工学部1回生) [91]

【シラバスに関する問題】

- ▼シラバスを見ていると、様々な科目があっという間だと思えます。ただ、もう少し、授業内容を詳しく紹介してもらえたらと思います。(文学部1回生) [16]
- ▼シラバスに載っている内容は、古いものもあるせいか授業内容との相違点が多く、授業によっては全く異なるものもある。また、「～の基礎」という科目でも、その分野の基礎的な概念を教えるというより、教授が専門にしている分野の内容ばかりを全く系統立てることなく話し続ける授業もある。(総合人間学部1回生) [119]

【休講・遅刻が多い】

- ▼有名な教授の方ほど（前後の授業の関係もあるのかしらんが）授業開始時間に10分以上遅れてきたり、10分以上授業を引き延ばしたりする。次の授業もあるし、時間はきっちりしてほしい。（文学部1回生） [106]
- ▼休講が多いことと、板書を整理して書いてくださる方が少ないことがやや残念です。（法学部1回生） [121]

【その他・全般】

- ▼配布するレジュメのサイズを全授業で、B5とB4、あるいは、A4とA3に徹底してほしい。（できれば、B5とB4がいい。）（薬学部1回生） [4]
- ▼講義の性格上、しようがないが、教師と生徒の距離が非常に大きいと感じた。もっと近い授業が多いと興味がわくと思う。（法学部1回生） [27]
- ▼生徒の要望を聞くことなく、毎年同じような授業はビデオで見ても大差がないので、ある程度生徒の意見が反映されてほしい。（文学部1回生） [51]
- ▼大学の授業としての要件をきちんと満たしている授業が少ないような気がする。原因は教員側にあるか学生側にあるかはさておき、授業の質向上を目指すべきだと思う。（経済学部1回生） [69]
- ▼1回生の受講者が多いことも理由かもしれないですが、全体的に進度が遅いような気がします。……学んでいるという実感や充実感が得られるような工夫が、授業をする側にも、そしてもちろん授業を受ける側にも必要だと思います。（教育学部4回生） [79]
- ▼総合人間学部の学生としては、特にA群に関して講義の多様性はあるものの、一つの分野を体系的に教えてもらえる授業が少し少ないように感じます。（総合人間学部4回生） [103]
- ▼最近になってレジュメを大量に配る授業が増えてきたと思う。丁寧なのは良いが、それだとレジュメだけもらって途中抜けしたり、友達に借りて授業に出ない不真面目な学生が増えるので良くないのでは。（総合人間学部3回生） [102]
- ▼全体的に単位とりにくいという印象を受けたし（笑）現にそう。全体的に少し進度が早めになっている感じがするので、もう少し1つの単元にじっくり時間をかけてやってくれればと思う。中々理系の方は近寄りづらいみたいだし、堅めのイメージを抜け出さないと理系の方は敬遠してしまうんじゃないか。（法学部1回生） [113]

▼A群科目は、よほど興味がない限り日常生活や将来に役立たせにくそうなものが多い。面白そうなものは面白そう。(農学部1回生) [114]

2. 3 その他のコメント

(a) 授業の二極分化の指摘 (9件)

肯定的評価・批判的評価いずれにも分類できない回答の中で最も多かったのは、「面白いものと、つまらなすぎるものとのギャップがすさまじい」[101]に代表されるように、A群科目の授業が内容の興味深さ・難易度などの点で二極分化していると指摘したものである⁹。

▼先生によって、また内容によって、大きく面白さが変わる。しかし、面白い授業が多いと感じている。(工学部1回生) [2]

▼興味があるものとないものの両方がある。(法学部1回生) [15]

▼バリエーションが多いのはとても嬉しいが、教官によって熱意の差が伝わってきて、集中してのめり込める授業と、始めから最後まで部外者の感覚でしかいられないような授業の双方が存在する。(法学部1回生) [24]

▼全く興味がないものと、とても興味があるものの2つに区別でき、不思議なことに、そのどちらでもないという授業はありません。……興味のある授業はとってよかったと思うけれど、全く興味がないものは、本当に単位のためだけに授業に出ているという感じがあります。なんか、せっかく授業に出てるのに、もったいないなあと思います。単位のためだけに授業に出るってさみしいことだと思います。自分が興味を持てるようになるのが、一番よいのですが。(法学部1回生) [30]

▼教養科目として、大勢の人にわかりやすい授業を展開してくれる教授と、“基礎”と講義名に入っていないながら、過度に専門的な事ばかりを話し続ける人がいる。(農学部1回生) [41]

▼面白いものと、つまらなすぎるものとのギャップがすさまじい。後者が多いように感じられ、残念。(総合人間学部2回生) [101]

⁹ この指摘は、前回調査ではさらに多く、全247件中39件を占めていた。

▼おもしろい授業とそうでない授業、準備が綿密にされている授業とかなりいきあたりばったりな授業との差がはげしい。(文学部1回生) [106]

▼担当教官によって授業の質はかなりまちまちだと思う。(文学部1回生) [111]

(b) 学生側の問題の指摘 (7件)

次に、授業を受ける学生の側の問題を批判的に指摘した回答が(自己反省も含めて)7件あった。「単位とるとらない以前に、この授業を受けて、何か自分の糧になるものを得よう!というやる気が絶対必要」[106]、「単位とるために大学来てるんじゃない」[107]という学生の側の「意識改革」の芽を、われわれ教員も大いに育てていく必要がある。

▼この授業ではないが、他のA群科目において、後ろの方でしゃべっている人がおり、うるさくて授業に集中できなかった。(工学部1回生) [10]

▼いわゆる“楽勝科目”をとってしまったが、自分の興味のある講義を選べば良かったと後悔している。後期はもっと慎重に選択したいと思う。(医学部1回生) [44]

▼毎回、紙を回して出席をとっている授業があるが、名前だけ書いて教室から出ていったり、友人に頼んでおいて書いておいてもらったりする学生も残念ながら一部見られるため、そんなに意味がないように思える。(農学部1回生) [48]

▼学んでいるという実感や充実感が得られるような工夫が、授業をする側にも、そしてもちろん授業を受ける側にも必要だと思います。(教育学部4回生) [79]

▼最近になってレジュメを大量に配る授業が増えてきたと思う。丁寧なのは良いが、それだとレジュメだけもらって途中抜けしたり、友達に借りて授業に出ない不真面目な学生が増えるので良くないのでは。(総合人間学部3回生) [102]

▼上にえらそうなことを書いてしまったけど、授業を受けにくる私達学生の方にも問題はあると思う。大学に来て、全学共通科目といえども、授業の内容を理解するのに最低限必要な知識というか、教養が自分にはあまりにも足りてないと思い知らされた。また、A群科目は語学(C群)と違って、週2回漫然と授業を受けに来て、それで次の週の授業までなーんにもしないことがほとんどである。これでは、授業で学んだことをしっかり吸収しているとはいえないと思う。授業中に先生が名前を出された本を、せめて一科目につき一冊は読む!とか何か自分で自分の教養を広げる(深める)努力をしなければ。

それくらいの熱意はもたないとあかんなあと思う。高い学費払って学校に来てるんだから、単位とるとらない以前に、この授業を受けて、何か自分の糧になるものを得よう！というやる気が絶対必要です。意識改革。結局私はこの1回生の前期はわりと授業には出ていたけど、熱心に聞いていたかというところ全くそんなことはなかったので、後期はもうちょっと高い意識をもって授業にのぞみたいです。(文学部1回生) [106]

▼一応大学は勉強する場所(一応勉強しようと思って来てる人のいるところ)なんだから、勉強がんばって何か自分の世界がひろがったなあと思えて、それで気付いたら単位をとれてた…っていう感じが望ましい。単位とるために大学来てるんじゃないんだから。(文学部1回生) [107]

(c) その他の要望・コメント (18件)

その他の要望やコメントには下記のように様々なものがあつた。

▼勉強とは主体性を持ってやらねばならないものであるから、講義に関しての注文など無い。(農学部1回生) [18]

▼「西洋史学」や「日本史学」は別にして、全学で受ける「経済学」や「政治学」ならば、社会を構成する「人」の一人として学べるように、現代を中心に、客観的に現代を見たいうえで社会人となるのに必要な知識を学ばせてほしいと思う。そのほうが、選挙においても自分の意見に合う候補者を選べたりできるのになと思う。(薬学部1回生) [28]

▼各講義について、手軽に質問ができるように、大学オフィシャルのネット掲示板を創設してほしいです。(総合人間学部1回生) [38]

▼このアンケートをどのように集計されるのか分かりませんが、人間・環境学研究科全学共通科目実施委員会、文系群会の方々に、是非、A群の授業を見てもらいたいです。(工学部1回生) [39]

▼B群についてのアンケートもとって、A群と比較してみるのもおもしろいと思います。(農学部1回生) [53]

▼A群は内容が概念的なものや抽象的なものになることがどうしても多くなってしまふ運命にあるので、一度内容を見失うと、理解が大変になる部分もある。しかし教員(その分野の専門家として)が、全体を見通して理解を助けるような講義をしているものは理解がしやすかった。(文学部1回生) [65]

- ▼全部の単位を真剣に取るのはしんどいので、いわゆる楽勝科目もいくつかは残して頂きたいと思う（笑）。（経済学部1回生） [69]
- ▼どうせなら、総人の全講義科目を全共で受けられるようにしてほしい。（工学部3回生） [93]
- ▼レポートの書き方、本の読み方など当たり前ではあるが、今いち分かっていない学問の基本に関する講義がほしい（短期でもいいので）（文学部1回生） [104]
- ▼A群科目は単に知識を伝え、専門へ行ったら忘れられる。そんな科目であってはいけないと思う。それで、もしつまらないと思う人がいたら、それはそれでいいと思う。その実現のために、1. 講義予定作成の廃止、2. 通年科目の復活を強く希望する。そして何より、このような学生からのフィードバックを続けて行って欲しい。（理学部3回生） [115]
- ▼今後も京大にふさわしい質の高い授業を行なっていただけると期待しています。（法学部1回生） [121]

第3章 個々の授業に関する学生たちの意見

この章では、「現在受講している上の授業〔回答者が調査票配布時に出席していた授業〕について、日頃考えていること、感じていることを自由に書いてください。」（問Ⅰ）に対する回答を紹介していく。

1 総合的評価

最初に回答内容を「当該授業についての総合的評価」という観点で大きく分類した結果を円グラフ（図3-1）で示した。見られるとおり、全体の半数弱が肯定的評価をしており、両価的または中間的な評価は2割強、批判的評価は3割弱であった。第2章で触れたとおり、A群科目全体についての評価とは逆に、学生たちが自身の出席している授業についてはより肯定的な評価をしていることがわかる。

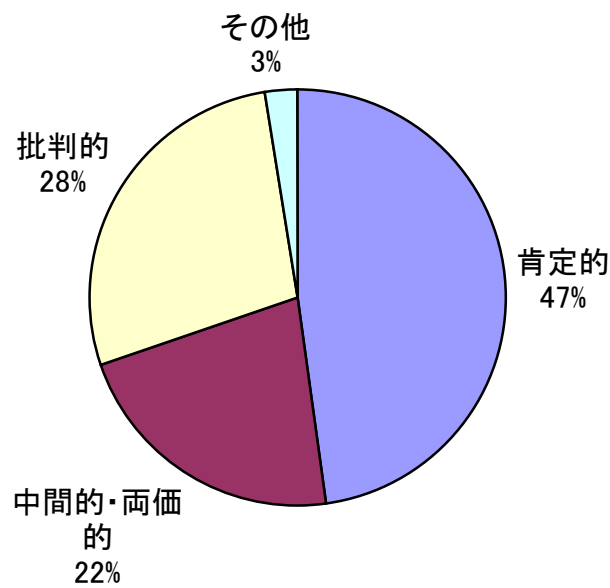


図3-1 問Ⅰの回答（当該授業についての総合的評価）

2 項目別集計

次に、回答内容を項目別に整理したものをグラフ（図3-2）で示そう。前章同様、一人の回答を複数の項目にカウントしていることがある。また、回答数5未満の項目は「その他」などにまとめた。

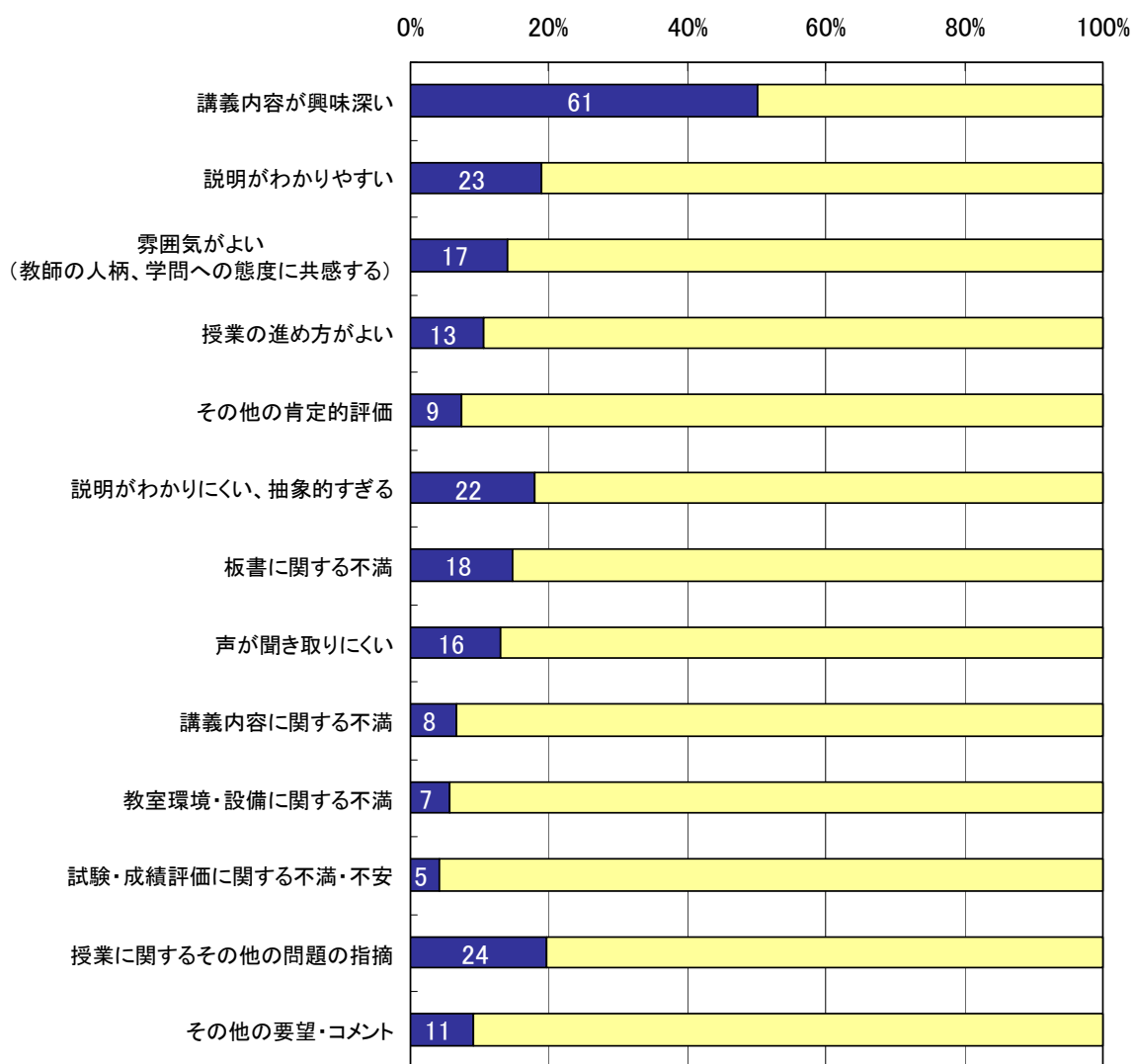


図3-2 問Iの回答（項目別）

ここでの基本的傾向も、第2章でみたA群科目全体についての評価と同様であり、肯定的評価では「講義内容が興味深い」とする回答が最大多数を占めたのに対し、批判的評価では授業の方法的・技術的問題の指摘（「説明がわかりにくい」、板書に関する不満など）が多数を占め、講義内容に関する不満は少なかった。

以下、やはり前章同様、それぞれの項目ごとの回答例を、肯定的評価（2. 1）、批判的評価（2. 2）およびその他の要望・コメント（2. 3）に大別して紹介していくが、回答内容は個々の授業に固有の情報が主であり、一般的な知見をそこから導き出すのは難しい。それゆえ本章では、回答に関するコメントは最小限にとどめ、学生たちの生の言葉を（原則として原文のまま）掲載し、じっくりお読みいただくこととしたい。前章でのA群科目全体についての回答に比べ、ここでの自分が現に履修している授業についての回答の方が、学生の言葉もよりリアリティに富み、生き生きとした記述になっているからである。なお、各回答の末尾には、回答者の整理番号に加えて、当該科目の属する系列名を参考までに付記した。

2. 1 肯定的評価

(a) 講義内容が興味深い (61 件)

「内容が興味深い」と評価する回答が、肯定的評価の中でも圧倒的に多数を占めた。中でも、「高校での倫理よりも深く、具体例を交えて講義してくれる」[7]、「高校までの歴史の授業が、いかに表面的で浅いものだったかということがわかった」[34]など、高校までの勉強に比べて大学での学問がいかに奥行き深いものであるかを納得し、歓迎するコメントがいくつもあった。

- ▼現在とっている授業の中で1、2を争うくらい面白いです。前提知識は殆ど必要ないし、講義の内容が普段の生活に結びつけられるものが多いので親しみやすいと思います。
(文学部1回生) [6]【行動科学系】
- ▼この授業では高校での倫理よりも深く、具体例を交えて講義してくれるので、とても有意義な時間を過ごせていると感じています。(農学部1回生) [7]【哲学・思想系】
- ▼現実の政治のあり方と法律の関連性に重点をおきつつ、授業をなさっているのは非常に面白い。(総合人間学部1回生) [9]【社会科学系】
- ▼今まで知らなかったことが聞けるので楽しい。(薬学部2回生) [11]【行動科学系】
- ▼単なる史実だけでなく、現在にも関連する話も交えながらの講義は退屈にならずに楽しんで受けることができます。(文学部1回生) [16]【歴史・文明系】
- ▼規範ということについても少し興味があったので、難しいなと思いつつも楽しく授業を聞いていました。(経済学部1回生) [22]【行動科学系】

- ▼面白い講義だと思います。古典を題材にした古語研究の解説は知らなかった事ばかりで、古語に対する理解が深まります。(理学部4回生) [23]【芸術・言語文化系】
- ▼私は法学部ですが、このような文学部領域の学問内容にも興味があるので、一般教育科目は大変面白く、有意義です。(法学部1回生) [24]【芸術・言語文化系】
- ▼シラバスに載っている内容に興味をもって登録した。他の学者の批判が多いが、面白い。(教育学部1回生) [31]【歴史・文明系】
- ▼英単語の当時の意味などから歴史をひも解いていくところがおもしろい。(教育学部1回生) [32]【歴史・文明系】
- ▼僕が現在受講している科目の中で、一番おもしろい共通科目だと思う。高校までの歴史の授業が、いかに表面的で浅いものだったかということがわかった。(法学部1回生) [34]【歴史・文明系】
- ▼自然科学と根本が異なる考え方をする「人間科学」がどんなものであるのかが分かってくるので非常に面白い。(工学部1回生) [45]【行動科学系】
- ▼毎回の授業を楽しみにしている。人数も減らないので、皆、同様の思いであろう。時折、先生が仰る、他研究者への批判も自らがアカデミックな場で学んでいるのだとの再認識が生じるし、他の見方でも歴史を学んでみようという刺激にもなるのでよいと思う。(文学部2回生) [52]【歴史・文明系】
- ▼小中高ではなかなか習わなかったような話が聞けておもしろかった。(農学部1回生) [53]【地域・文化系】
- ▼高校時代に学んだことよりも、かなり深くまで掘り下げてくれるので面白いし、大変わかりやすい。知らなかったことばかりであり、個人的には大変興味深い授業であると思う。(農学部1回生) [54]【歴史・文明系】
- ▼直接話の内容に関係がないような事(ある物の名前の由来など)でも聞いていると面白い。(文学部1回生) [71]【芸術・言語文化系】
- ▼今まで単に覚えるだけで素通りしてしまっていた出来事の因果関係を知ることが出来るのが良い。……今まで考えもしなかった内容が有って、そういう所へも興味が広がった。(文学部1回生) [72]【歴史・文明系】

▼通史としての歴史は高校などでもある程度勉強してきていますが、横のつながりや背景知識などを知ることができるところが、この授業のいいところだと思います。(教育学部 4 回生) [79] 【歴史・文明系】

▼**学ときくと堅苦しいイメージをもつ。でも、この授業では例をいくつも出してくれて、それら全てわかりやすいものなので、「道徳」という一瞬拒絶反応を起こしてしまいそうなテーマのものも興味をもって聴くことができた。(工学部 1 回生) [89] 【哲学・思想系】

▼**学の様々な理論を本講義で聞く中で、人間の行動、日本人の行動、学生の行動、自分の行動がどんな要因で起こっているのかを、日常生活でも積極的に考えるようになった。(医学部 1 回生) [90] 【行動科学系】

▼内容としては、他の授業では絶対に出てきそうにないもので、新鮮であり面白いと思う。(総合人間学部 2 回生) [101] 【社会科学系】

▼日常的な親と子の関係や先生と子供の関係の例から、この関係は本当はどういったものなのか、研究や観察はどのような姿勢で行なって行くべきか、という話につながっていくので、興味がもてた。(医学部 1 回生) [108] 【行動科学系】

▼普段の生活の中では歴史的な資料は図書館で本を読んだりしないと目にすることがないので、授業の中で少しずつ目にすることができるのが珍しくて興味深く話を聞けることができるので楽しいです。(工学部 1 回生) [110] 【芸術・言語文化系】

(b) 説明がわかりやすい (23 件)

「説明がわかりやすい」という回答が、肯定的評価の中での第 2 位を占めた。講義という一方向的コミュニケーションにならざるをえない授業形式の中でも、授業の内容に対する学生の理解をなんとかして高めようとする教員の情熱が伝わってくるコメント群である。

▼説明も具体例を混ぜながら分かりやすく、板書もきれいにまとめて書かれているので、理解しやすい。(薬学部 1 回生) [5] 【哲学・思想系】

▼先生は資料を配ってくれたり、きちんと板書してくれたりしているので、しっかり聞く気があれば、よく理解できると思います。説明もわかりやすいです。(医学部 1 回生) [13] 【芸術・言語文化系】

▼カントのような哲学者思想というものは、高校の「倫理」では重要用語の暗記に終わってしまいがちですし、大学に入って、自分で読もうとしても、難しく挫折してしまうことが多いです。(もちろん、独学できちんと勉強される方もいるでしょうが)。反面、こうした哲学者の思想は、特に文系の学生にとっては、一般常識として知っている必要があり、それを平易に解説してくれるこの授業は大変ためになりました。他にも哲学思想に関する講義はあるかと思いますが、この授業ほど、平易で解りやすいものはないと思います。(経済学部3回生) [29]【哲学・思想系】

▼授業の内容は分かりやすい言葉で、様々な具体例を織りまぜて話してくれるので、理解しやすいです。(文学部1回生) [59]【行動科学系】

▼板書が多くて理解の助けとなり、理解しやすかった。人数も少なかったので、近くで講義が受けれて参加している感じがあった。雑談もあったが、内容への興味がふくらむものであったので、効果的な意味を持つ話だった。プリント類も丁度いい感じの量や内容で分かりやすい表記や配置であった。関連分野の話や文献についての話も盛り込まれていて関心がかき立てられた。教員自身が気さくな感じで親しみやすく、興味を引く一因であった。(文学部1回生) [63]【歴史・文明系】

▼全体的に板書が多く、筋が通っていて内容理解がしやすかった。授業の評価の仕方がはっきりしていて、その仕方をする意味の説明があり、受ける側もより誠実に受けることができた。(文学部1回生) [64]【地域・文化系】

▼概念的な内容が多いけれども、具体例が多く入っているので結構分かりやすい。直接話の内容に関係がないような事(ある物の名前の由来など)でも聞いていると面白い。(文学部1回生) [71]【芸術・言語文化系】

▼レジュメが詳しいので、わかりやすいです。(総合人間学部2回生) [78]【社会科学系】

▼教科書がわかりやすくていい。身近な例が載っていると理解しやすい。(文学部1回生) [84]【行動科学系】

▼難しいけれど、先生の説明がとてもわかりやすく、お話もおもしろいので必ず出席しています。……授業後に**先生に質問をすると先生はとてもていねいに、時間をかけて説明をしてくださいます。(農学部1回生) [116]【行動科学系】

(c) 雰囲気がいよい（教師の人柄、学問への態度に共感する）（17件）

肯定的評価の中で第3位を占めたのは、教師の人柄や学問への態度によってかもしだされる授業の雰囲気への共感を記した回答であった。これらの記述からは、自らの学問的関心を原動力として、熱意をもって授業に取り組んでいる教員の様子がよくうかがわれる。

- ▼先生は肩ひじはらない感じで、マイペースに授業なさるので、生徒も負担が少なくていいと思います。（文学部1回生） [6] 【行動科学系】
- ▼教授は貴重な研究の時間を削ってまで講義をしているのだという**先生の言葉には共感している。（農学部1回生） [18] 【地域・文化系】
- ▼講義には熱意が感じられますし、人間性としても、**先生は好きです。（総合人間学部1回生） [38] 【歴史・文明系】
- ▼この教員が持つ独特の雰囲気に魅かれて毎回出席し続ける学生も多数いるため、これからも独自のスタイルを貫いていただきたい。（農学部1回生） [48] 【芸術・言語文化系】
- ▼教員自身の熱意がよく伝わってきて引き締まる場所もあった。しっかりと学生に向かって講義をしてくれている感じがあった。（文学部1回生） [62] 【歴史・文明系】
- ▼教員自身が気さくな感じで親しみやすく、興味を引く一因であった。（文学部1回生） [63] 【歴史・文明系】
- ▼話は抽象的ではあるけれど、教官独自の味が出ていて個人的には好きだ。（文学部1回生） [88] 【地域・文化系】
- ▼先生が本当に**の好きな方なんだなあというのが、聞いているこっちにも伝わってきます。（文学部1回生） [106] 【芸術・言語文化系】
- ▼教官からは「教えよう」という姿勢がとてもよく伝わってくるので、時間不足は本当に惜しいと思った。（文学部1回生） [111] 【行動科学系】
- ▼何はともあれ先生が熱意を持って講義に取り組んでいるのが伝わってくる講義であったので、大いに知的な刺激を受けることができ、大変有意義な時間を過ごせたと思う。（農学部2回生） [120] 【行動科学系】

(d) 授業の進め方がよい (13 件)

肯定的評価の第4位は、授業の進め方についての技術的工夫に関するものであった。こうした学生の記述からも、ひとりひとりの教員が工夫と努力を重ねながら教育に取り組んでいる様子がうかがわれる。

- ▼詳しく説明しているし、授業の始めには少し先週の復習のような話をしてくれるので良いと思う (薬学部1回生) [4] 【歴史・文明系】
- ▼毎回、前回の授業内容を復習してくれるのがありがたいです。(文学部1回生) [16] 【歴史・文明系】
- ▼レジュメの配付はとても心強く、良かった。(医学部1回生) [44] 【行動科学系】
- ▼授業の内容を確認するような小テストを2回で単位認定の可か不可を決めるという方式も、楽勝すぎず重すぎずでよかったと思う。レポートによる救済があるのもうれしい。(農学部1回生) [53] 【地域・文化系】
- ▼授業内容については興味の持てることが多く、スライドも多く実物が見れて実感できた。(文学部1回生) [61] 【地域・文化系】
- ▼レジュメやハンドアウトと授業内容も丁度良く理解がしやすかった。(文学部1回生) [62] 【歴史・文明系】
- ▼プリント類も丁度いい感じの量や内容で分かりやすい表記や配置であった。(文学部1回生) [63] 【歴史・文明系】
- ▼重要なことは繰り返して言ってくれるし、板書が少し少ないかな?という以外に言う事はありません。楽しい授業です。(工学部1回生) [70] 【歴史・文明系】
- ▼板書が詳しく、後で見返した時、今まで何をやってたのかすぐわかるのもよい。(工学部1回生) [89] 【哲学・思想系】
- ▼授業の進むペースも遅すぎず早すぎずで有難い(前回の授業のおさらいみたいな感じで授業が始まるから、話が思い出しやすい)。(文学部1回生) [107] 【歴史・文明系】

(e) その他の肯定的評価 (9 件)

その他の肯定的評価としては、下記のようにさまざまなものがあった。

なお、批判的評価の中で (A 群科目全体、個々の授業の両方について) 「もっと出席を重視してほしい」という意見が数件あったが、それと正反対に、[97][99]のように出席をとらない授業を (怠惰とは逆の理由で) 歓迎する意見もあった。

A 群科目の講義が、その理念においては「学問的テーマへの興味・関心以外のものが排除されているという意味で……きわめてアカデミックな空間」であり、学生の匿名性の確保 (出席をとらないこと) が、このような空間を成立させるための前提条件をなしているというわれわれの考え¹⁰⁾に一致するのは、いうまでもなく後者のタイプの学生である。A 群科目担当教員としては、こうした理念がより多くの学生に理解されるよう、努力する必要がある。

- ▼テストの形式もとても生徒に優しいので、気負わずに授業を受けれます。(工学部 1 回生) [2] 【地域・文化系】
- ▼しゃべっている人もいなくて、教員の話をしっかり聞けるのでよい。(工学部 1 回生) [10] 【歴史・文明系】
- ▼経済学を学ぶにあたって、役に立ちそうなことがいっぱいあるのでこの授業を取ってよかったです。(経済学部 1 回生) [22] 【行動科学系】
- ▼教室の広さと履修者の人数の割合もよく、いい環境で勉強できた。(農学部 1 回生) [53] 【地域・文化系】
- ▼授業の評価の仕方がはっきりしていて、その仕方をする意味の説明があり、受ける側もより誠実に受けることができた。(文学部 1 回生) [64] 【地域・文化系】
- ▼全共科目だと、概論的な話で終始しがちだが、そうでなかった所が有意義だったと思う。(工学部 3 回生) [93] 【社会科学系】
- ▼学問とは本来、義務ではなく個人の自由によってなされるものであるもので、一般教養の授業のように、没个性的、匿名的に出席をとらずになされることはそれでいいと思います。最後にテストかレポートで理解度をためせばいいわけですから。(総合人間学部 3 回生) [97] 【社会科学系】

¹⁰⁾ 前掲『教養教育に関する人間・環境学研究科・文系群会の考え』、3-7 頁

▼全部出席したが、基本的に出席をとって評価に入れる教官は嫌い（実力を評価しないから）なので出席をとらないこの授業は好きだった。（総合人間学部3回生） [99] 【社会科学系】

2. 2 批判的評価

(a) 説明がわかりにくい、抽象的すぎる（22件）

個々の授業への批判的評価の中で第1位を占めたのは、「説明がわかりにくい、抽象的すぎる」という意見であった¹¹。

▼将来、**学を専攻することも考えていたので、**学基礎論を選択した。私にとって非常に興味深い内容もたくさんあったのだが、抽象的概念の解説が多く、現実の事例の分析があまりなかった点については、少々当てがはずれたかっこうである。（基礎論、ということもあるため、仕方がないことなのかも知れないが、……。）私自身、**学という学問体系について、あまり知らないまま専攻を志望していたのかも知れないが、もっと今現在起こっている事象と結びついた講義を受けてみたい。（文学部1回生） [3] 【行動科学系】

▼時間的制約があるためかもしれないが、難しいところをじっくりやってほしいのに、やってくれていない気がする。（理学部1回生） [12] 【地域・文化系】

▼総論であるので、抽象的であり、どのような場面でそういった方法論が用いられるのかが実感を持って把握しにくい。だから、多少一つの事例を検討、あるいは複数と比較して、総じて言えることを導き出すといったかたちで議論を進めていただくと、総論が理解しやすいのではないかと思います。（総合人間学部3回生） [14] 【社会科学系】

▼講義内容は興味深いものであるが、いまいち主旨がつかみにくい。（薬学部1回生） [19] 【歴史・文明系】

▼内容が抽象的、かつ高度であり、興味深いとは思いますが、むずかしくてわからない。使う言葉（日本語、英語含め）が難しく、理解しにくいと思う。（法学部1回生） [35] 【社会科学系】

¹¹ コメントは前章の2. 2 (b)（本報告書12頁）と同様になるので省略する。以下同様。

- ▼抽象的である。少し困難。(総合人間学部 2 回生) [42] 【社会科学系】
- ▼授業が教員の話のみで進められるので、少し分かりづらい。もう少し、図解などを板書した方が良い。レジュメの配付はとても心強く、良かった。(医学部 1 回生) [44] 【行動科学系】
- ▼内容については、専門的な知識や用語が多くつかわれ、ついていくのが難しいと感じることがかなりあります。(文学部 1 回生) [74] 【地域・文化系】
- ▼とても難しいです。雑学としては楽しめますが。大事なところと雑談(?)の違いがよく分かりません。(文学部 1 回生) [82] 【地域・文化系】
- ▼難しすぎて、あまり理解していません(泣)(文学部 1 回生) [83] 【芸術・言語文化系】
- ▼流れがよく分からず、説明も曖昧で何を言われているのかよく分からない。筋が見えない。資料を見せられても変遷がつかめない。……まず目的(?)を提示してほしい。資料の羅列をされても興味を持たない。(文学部 1 回生) [87] 【芸術・言語文化系】
- ▼先生の言葉がさっぱり分からない。(工学部 1 回生) [91] 【行動科学系】
- ▼話の内容が様々な分野にとぶので(最後には1つのテーマに終束するが)予備知識のない自分としては理解しにくい時もあった。(文学部 1 回生) [105] 【歴史・文明系】
- ▼授業で扱う内容は非常に難解であり、一年かけてゆっくりしっかり教えて欲しかった。教官が出来るだけわかりやすく解説しようとしてくれるものの時間が足りないために授業が駆け足になってしまっているという感じだった。教官からは「教えよう」という姿勢がとてもよく伝わってくるので、時間不足は本当に惜しいと思った。(文学部 1 回生) [111] 【行動科学系】
- ▼先生の話し方はとても聞き取りやすく、理解しやすいように色々な例を交えて話してくれるので、授業そのものはよいのだが、授業内容があまりに抽象的すぎて、具体的な事例と理論とのつながりがなかなか見えてこない。(総合人間学部 1 回生) [119] 【行動科学系】

(b) 板書に関する不満 (18 件)

個々の授業への批判的評価においても、板書に関する不満は第2位と多くを占めた。

- ▼もう少し、板書を分かりやすくしてほしい。(薬学部1回生) [4]【歴史・文明系】
- ▼黒板の板書をもっとまとめて、多く書いてほしい。(薬学部1回生) [8]【歴史・文明系】
- ▼黒板の字はきれいで見やすいのですが、もう少し、大きく書いて欲しいです。(文学部1回生) [17]【歴史・文明系】
- ▼黒板に書かれていることが、単語が多くて、文章で書かれていなくて分かりにくい。言葉に指示語が多くて、要点が理解しにくい。(薬学部1回生) [20]【歴史・文明系】
- ▼黒板の字ももう少し大きく書いていただけると嬉しいです。(法学部1回生) [24]【芸術・言語文化系】
- ▼字が読みにくい。(教育学部1回生) [31]【歴史・文明系】
- ▼授業が教員の話のみで進められるので、少し分かりづらい。もう少し、図解などを板書した方が良い。レジュメの配付はとても心強く、良かった。(医学部1回生) [44]【行動科学系】
- ▼板書をもっとしてほしい。(薬学部1回生) [46]【その他】
- ▼黒板を有効活用しているとは言い難い。(農学部1回生) [55]【地域・文化系】
- ▼板書が薄いので見えないことが多々ある。また、話が進むのが速い上、黒板には単語の羅列のみ、といった感じで理解しにくい。主題と結論のつながりもわかりにくい。内容自体はきちんと理解できれば興味深いものだと思うが、学生の反応を見ずに勝手に授業を進めている感がある。意味不明な板書もある。小さすぎて見えない。(農学部1回生) [56]【芸術・言語文化系】
- ▼重要な箇所は板書してほしい。(総合人間学部4回生) [67]【社会科学系】
- ▼やっぱり板書はもう少しまとめてほしいです。(文学部1回生) [83]【芸術・言語文化系】

- ▼黒板をもっとあとから見て、復習しやすいように整理してかいてほしい。例えば人名と**名だけではなく、かんたんな説明を付してかいてほしい。(薬学部1回生) [85]【地域・文化系】
- ▼黒板をほとんど使わないので、英名のつづりが分からないことが結構ある。(文学部1回生) [104]【歴史・文明系】
- ▼先生の板書の量が少ないので、話をききおとしたらわからなくなる。(農学部1回生) [114]【歴史・文明系】
- ▼板書がほとんどなく全て口頭による説明なので眠くなる。(工学部1回生) [117]【哲学・思想系】
- ▼授業中に板書を書いてくださらないため、授業内容をまとめて書き記すことが困難になっています。レジュメの形で配布していただくか、整理された板書を書いていただければありがたいです。(法学部1回生) [121]【歴史・文明系】

(c) 声が聞き取りにくい (16件)

批判的評価の第3位は、「声が聞き取りにくい」という純技術的な問題の指摘であった。

- ▼先生は授業中にマイクをお使いになりませんが、これでは後ろの席に座った生徒が少々聞き取りにくいということが生じますので、若干のご配慮を願います。(法学部1回生) [24]【芸術・言語文化系】
- ▼少し声が小さく、聞きづらい時があったと思われる。(医学部1回生) [43]【行動科学系】
- ▼声が小さくて、後ろまで聞こえない。(聞き取りにくい) (教育学部1回生) [50]【行動科学系】
- ▼マイクを使っていないので一部聞き取りにくい部分があった。(文学部1回生) [61]【地域・文化系】
- ▼大きい教室、大人数にもかかわらずマイクなしなので聞き取りづらく、理解がしにくいところがあった。(文学部1回生) [65]【芸術・言語文化系】

- ▼口調がややききとりづらい。重要な箇所は板書してほしい。(総合人間学部4回生) [67] 【社会科学系】
- ▼教官の発音が聞きとりづらい。(法学部1回生) [68] 【社会科学系】
- ▼声がききとりにくいので、マイクを利用した方がいいと思う。(総合人間学部2回生) [77] 【社会科学系】
- ▼もう少し声が聞こえるように大きい声で話してほしい。(教育学部1回生) [81] 【芸術・言語文化系】
- ▼マイク使って下さい。声が後ろまであまり届きません…。(文学部1回生) [83] 【芸術・言語文化系】
- ▼声が聞き取りにくかった。(工学部2回生) [96] 【社会科学系】
- ▼先生の言葉がききとりにくい面が、時々ありました。(総合人間学部4回生) [98] 【社会科学系】
- ▼ちょっと声が聞き取りにくい。(総合人間学部3回生) [99] 【社会科学系】
- ▼先生の声が若干聞き取りづらい。それを除けば良い講義だったと言える。(工学部1回生) [100] 【社会科学系】
- ▼先生の声がよく聞き取れない。マイクを持ってほしい。(総合人間学部3回生) [102] 【社会科学系】

(d) 講義内容に関する不満 (8件)

数としては多くはないが、講義内容についての不満が批判的評価の第4位を占めた。

- ▼もっと幅広い範囲での授業をしてほしい。(薬学部1回生) [8] 【歴史・文明系】
- ▼この時限にはとりたい講義がまったくなかったため、比較的単位を取りやすいと聞いたこの講義を受講した。そのため、あまり興味がわかず、講義に欠席する、または講義で別のことをやるなどの行為をしばしば行なう。他の人が同様のことをするのもしばしば見かける。……この講義はA群の中でも特に実生活に役立たない。趣味、または研究の

範囲にあると感じる。(法学部 1 回生) [15] 【芸術・言語文化系】

▼興味があとの方に行くにつれ、わかなくなっていくため、つまらないと感じることが多くなった。具体的に「こういう状況に対してはこういう政策を実行する」ということを学ぼうと思っていたため、納得はいかなかった。(薬学部 1 回生) [28] 【社会科学系】

▼内容にあまり興味もてない。他の学者の問題発見について批判をしているが、**問題に関する問題発見がそれほど重要なのかと思う。……歴史は結果論で語られることが多いので、過程や見落とされがちな点、通説に対する反論がおもしろいということは、私も歴史が好きなので知っているつもりだし、A群の他の歴史の授業にも興味を持てるものがあるが、この授業についてはそれがわからない。研究なのだから、独りよがりでもいいという意見もあるかもしれないが、授業なのだから学生になぜ自分が excite しているかを伝えていく必要があると思う。(教育学部 3 回生) [33] 【歴史・文明系】

▼つまらん！おもしろくない！もっとがんばってほしい、なんでこの講義続けられるのがギモン。(法学部 1 回生) [122] 【地域・文化系】

(e) 教室環境・設備に関する不満 (7 件)

教室環境や設備に関する不満が若干あり、批判的評価の第 5 位となった。

▼マイクの調子がいつも少し悪い。(総人 1102) (工学部 1 回生) [45] 【行動科学系】

▼この授業は大変人数が多く、6 月半ば頃までは、5 分ほど早めに行っても席がなく、床に座ったり、立ってみたり、という状態でした。……空いている場所に折り畳みいすを並べるだけでも大分改善されることだと思います。(文学部 4 回生) [58] 【その他】

▼ちょっと教室が寒いです。(文学部 1 回生) [84] 【行動科学系】

▼空調が効きすぎている。(総合人間学部 3 回生) [102] 【社会科学系】

▼授業内容とは関係ないが、いつも少人数で講義が行なわれているわりに教室が広過ぎるよう感じました。もう少し小規模でやってもいいのでは。(総合人間学部 4 回生) [103] 【社会科学系】

▼4 共 21 教室では教壇のせいで前の方の席 (目が悪いので) からだと黒板の下の方の文字が見えない。(工学部 1 回生) [112] 【歴史・文明系】

▼テレビをつけてくれるのはいいのですが、一番前のテレビしかついておらず後ろの人は見にくいと思います。自分は前の方に座っているので平気ですけど…（工学部1回生）
[118]【地域・文化系】

(f) 試験・成績評価に関する不満・不安（5件）

試験や成績評価に関する不満・不安も若干あり、批判的評価の第6位となった。

▼授業で出席をとるか、あるいは授業内容についてのテストをするなど、授業を出ることで単位がとりにやすくなるようにしてほしい。（薬学部1回生） [8]【歴史・文明系】

▼単位の評価が試験かレポートかはっきりしてほしい。（工学部1回生） [26]【歴史・文明系】

▼試験で何がでるかちょっとわかりにくく不安。（工学部1回生） [36]【芸術・言語文化系】

▼毎回、出席をとるようにしてほしいです。例えば、帰るときにICつき生徒証でチェックをするなど。（総合人間学部1回生） [38]【歴史・文明系】

▼小テストは、宿題にするとやはり、他人のを丸写しする人もいるから不公平が生じると
思います。（文学部1回生） [82]【地域・文化系】

(g) その他の問題点の指摘（24件）

その他の問題点の指摘は、教材、シラバス、休講等々、きわめて多岐にわたっている。

これらの中でとくに注目されるのは、「あまり過激に他人を批判するのはどうか」[69]、「教官が用いる具体例が露骨な性的表現を含んでいることが多く、どうかと思います」[74]のように、アカデミック・カルチュアと学生の（いわば世間的な）カルチュアとのギャップを感じさせるコメントがいくつか存在したことである¹²。学問における批判の本質的重要性や、学問的関心がいかなる対象をもタブー視せず直視するものであるといった点を、とくに1回生はまだ十分に理解できていないのかもしれない。

¹² [74]は地域・文化系科目のひとつについての意見であるが、その科目の性質上、性的事象を扱うことには学問的必然性があると考えられる。

【教材に関する問題】

- ▼コピーした地図では判別がつかないことが多かった。もう少しきれいな地図が欲しい。
(法学部1回生) [27] 【地域・文化系】
- ▼教科書と授業内容の関連性が薄い。(文学部1回生) [51] 【地域・文化系】
- ▼レジュメだけでなくビデオ等の映像による授業も、もっとやってほしい。教員が口で話しているだけでは頭に残りにくい。(工学部1回生) [75] 【哲学・思想系】
- ▼後半からレジュメを配布し、それについて捕足するやり方変わった。これ以降の授業で言われたことが、ほぼレジュメと全く同じ内容で、少しもったいなかった。(総合人間学部2回生) [101] 【社会科学系】

【シラバスに関する問題】

- ▼多少なりの知識がないと全くわからない内容だろうと思う。実際、そんな話もちらほらと聞こえた。でも、初歩からやったりしたら絶対つまらなくなると思うから、シラバスに何か一言書いた方が良いかも知れないと思う。偉そうなこと言ってすいません。(法学部1回生) [34] 【歴史・文明系】
- ▼シラバスでは「**について学ぶ」とあったので「ある状況下では人々はこのような行動をとる」というようなことを学ぶと思っていた。しかし実際はそうではなかったので、シラバスには誤解を招かないように書いて欲しかった(私の理解が十分でなかったせいもあるのだが)。(文学部1回生) [111] 【行動科学系】

【休講・遅刻等に関する問題】

- ▼休講が続いたからといって、授業を早く始めて、更に延長するのはやめてほしい。(薬学部1回生) [46] 【その他】
- ▼先生がいつも15分弱遅刻してくる。うれしいような悲しいような…。……2コマ目が北部キャンパスで開講されているものだったので、少しでも延長されると困った。(農学部1回生) [53] 【地域・文化系】
- ▼正規には90分のはずだが、大体いつも75分で終わってる気がする。勿体無いようにも思われる。(工学部3回生) [93] 【社会科学系】

【その他・全般】

▼たまに「～かもしれません」と推測でおっしゃることがあるので、授業を受けている身としては、推測ではなく、事実に基づいた確固たることのみを教えてほしいです。こういう考え方があるんですよ、という提示ならおもしろいですが。(法学部1回生) [30]

【地域・文化系】

▼東京の方々の説を名指しで批判されるのはいかがなものか。(文学部2回生) [60] **【歴史・文明系】**

▼先生が喋る際、下を向いて話されるので、今イチ印象に残りにくい授業であるかもしれないと感じた。(総合人間学部4回生) [66] **【社会科学系】**

▼一言だけ申し上げるとすれば、あまり過激に他人を批判するのはどうか、と思われることである。根拠があつてのことであるし、僕自身は何とも思わないが、きっと気分を害する人もいると思う。(経済学部1回生) [69] **【歴史・文明系】**

▼全体的に、教官が用いる具体例が露骨な性的表現を含んでいることが多く、どうかと思います。いわゆる下ネタ的な具体例などはノートをとるのをためらってしまいます。もう少し別の例もたくさんあると思うのですが。(文学部1回生) [74] **【地域・文化系】**

▼授業の方法に関しては、話の内容はおもしろいのですが、その話が全体の流れの中でのどのような位置にあり、どのような意味をもつかが分かりにくい時があります。最終的にはつながりが分かるのですが、もう少し体系的な進め方でもいいのではないかと思います。(教育学部4回生) [79] **【歴史・文明系】**

▼前回のもしくは前々回の講義との重複がやや多い。(工学部1回生) [112] **【歴史・文明系】**

▼確かに興味深い内容ではありますが、進度が遅いこと、同じ内容をくりかえしおっしゃっていることが少し残念に思われます。もう少し広い範囲に関して、又は同じ範囲をより深く教えていただければありがたいです。(法学部1回生) [121] **【歴史・文明系】**

2. 3 その他の要望・コメント (11 件)

上記以外の要望やコメントにも、さまざまなものがあった。ここでも、前章の 2. 3 (b) と同様に、周囲の (不真面目な) 学生に対する批判的コメントがいくつかみられる ([18][38][59])、その一方で「私は理学部生であり、A群科目は進級あるいは卒業の手段ではないが、本当の意味で、単なる手段になっては悲しいと思う」[115]という自己反省的コメントもあった。こうした熱意ある学生の思いに、われわれ教員は応えていく必要がある。

▼ 要望が 2 つある。

まず授業で教える内容全てが書かれている教科書を用意してほしい。既存の本を利用するか、ご自分で本を執筆するか、あるいは冊子を作るか、方法は何でもいい。人間が授業で集中していられる時間は長くて 30 分間だと言われている。さらに、その日の体調により授業中に眠ってしまったり、諸事情により授業を休んでしまうこともある。したがって、授業で全てを説明する、あるいは教科書には 60% だけ書いてあり、残り 40% は授業でのみ説明するというようなやり方は無理がある。「これを読めば授業で習う全て分かる」という教科書は絶対必要だと思う。

次に、そんな教科書があることを前提として 2 つ目の要望である。授業の形態のことである。「授業の終わりに、次の授業の範囲を教科書のページで指定して読んでくるように言う。(授業を休んだ人のために掲示板でも知らせる) 次に授業では、教科書をよりわかりやすく説明する。」というやり方がよい。これで生徒は、機械的にノートを取るだけで話が耳に入らない事態を避け、話を聞きながら選択的にノートを取ることができると思う。授業が復習になるため、理解度も飛躍的に向上するはずである。(工学部 1 回生) [1] 【行動科学系】

▼参考図書の紹介をしてけると嬉しいので今後、してくれたらと思います。(文学部 1 回生) [16] 【歴史・文明系】

▼一般向けの参考図書を紹介してくると嬉しいです。(文学部 1 回生) [17] 【歴史・文明系】

▼授業というよりも、出席していないにも拘わらず、インチキして単位を取得しようとする連中に腹が立つ。教授は貴重な研究の時間を削ってまで講義をしているのだという*
*先生の言葉には共感している。何も勉強せず、しかも教授を裏切ってまで単位を取ったところで一体何になろうか。(農学部 1 回生) [18] 【地域・文化系】

▼レポートですが、出席をせずに、レポートをインターネットでコピーする学生が多く、毎回、授業に出、レポートも真剣に取り組んでいる僕みたいな生徒が不利益をこうむることがあるので、非常にくやしいです。(総合人間学部 1 回生) [38] 【歴史・文明系】

- ▼面白い授業だった。でも、一回目のテストのときに後でテスト用紙を配るときに問題を起こした人がいて、非常に嫌だった。(学部・回生不明) [47]【地域・文化系】
- ▼授業の内容は分かりやすい言葉で、様々な具体例を織りまぜて話してくれるので、理解しやすいです。別に悪いわけではないのだけど、なぜか講演を聞いている気分になります。(一方的な授業だから??) 一番この授業で気に入らないことは、授業の始めなど、後ろの方が騒がしいことです。私自身、この授業を楽しみにして、しっかり聞きたいので、邪魔されるととても嫌です。(文学部1回生) [59]【行動科学系】
- ▼なんか教室がガラガラだったので少し寂しかった。もっと授業に来る人(履修者ではない)が増えるように対策をとればなあ、ふと思った。(法学部1回生) [86]【地域・文化系】
- ▼半期に納めてしまうには惜しい内容で、できれば通年でやって欲しい。先生の熱意を感じ、おもしろいと感じるが、時に出される例がよくわからない事がある。もし、大学の講義をわかりやすくしていこうというつもりなら、何らかのフィードバックを行なっても良いと思う。但し、このような教授をしばる方針には個人的には反対である。それよりも教授個人の含蓄のある話しをより多く聞きたいので、講義予定や内容を固定せずに、ある程度自由にやった方が良いと思う。私は理学部生であり、A群科目は進級あるいは卒業の手段でしかないが、本当の意味で、単なる手段になっては悲しいと思う。(理学部3回生) [115]【行動科学系】

おわりに

第1章で述べたように、本調査は前回調査を補完する位置づけにあり、得られた知見も基本的には前回調査と同様である。したがってこの調査報告書にとって本質的に重要なコンテンツは以上紹介してきた学生たちの回答内容そのものなのであるが、ここでとりあえず次のように簡潔に結論を述べておこう。

- ①個々の授業についての評価は高いが、それに比べて、A群科目全体に対しては批判的評価がやや多かった。
- ②肯定的評価は、個々の授業に対しても、A群科目全体に対しても、主として講義内容そのものの興味深さに対して向けられていた。
- ③批判的評価は、いずれに対しても、講義の内容に関するものはごく少なく、授業方法に関する技術的問題（説明がわかりにくい、板書に関する不満、声が聞き取りにくいなど）の指摘が多くを占めた。
- ④学生自身の学ぶ姿勢等についての問題点の指摘や、率直な自己反省がみられた。

A群講義科目の基本理念が、学問的テーマへの純粋な関心を教員と学生とが共有することによってのみ成立する「きわめてアカデミックな空間」¹³にあることを、以上の結論は裏づけている。したがって、この理念のより十全な実現のためには、われわれ教員自身が自らの知的・学問的関心の上に立ちつつ、学生の知的関心にさらに応えてゆく努力が今後も求められているといえよう。

以上で、2004（平成16）年6月から7月にかけて実施された、《A群科目「学生による授業評価」》についての報告を終える。本報告書について、さまざまな角度から忌憚のないご意見、ご批判をいただければ幸いである。

なお、2003（平成15）年度の前回調査と基礎ゼミ調査、および今回の調査で、自由記述方式による「学生による授業評価」は一定の蓄積と成果を得て一段落したと考えている。今後は新たな調査方式を導入することにより、A群科目教育についての学生たちの意見や感想をさらに新たな角度から調査・分析していくことを計画している。

¹³ 前掲『教養教育に関する人間・環境学研究科・文系群会の考え』、7頁

最後になったが、調査にご協力いただいた先生方、そして熱意ある回答を寄せてくれた学生諸君に、この場をお借りして深く感謝申し上げたい。

2005年3月

人間・環境学研究科全学共通教育実施委員会・文系群会WG

川島昭夫

小山静子

須田千里

大黒弘慈

高橋由典

富田恭彦

吉田 純

A群講義科目「学生による授業評価」協力のお願い

人間・環境学研究科全学共通科目実施委員会・文系群会

現在京都大学においては、人間・環境学研究科と理学研究科が全学共通教育の実施責任部局となっており、A群科目（C群、D群もそうですが）に関しては、両部局のうち人間・環境学研究科が主体となって教育が行われています。このたび私たち人間・環境学研究科に所属するA群科目（A・B群科目も含む）担当者の集団（「文系群会」といいます）は、昨年度に引き続き、自分たちの担当している本年度前期開講のA群科目の中から21の講義科目を選び、「学生による授業評価」を実施することにしました。

A群科目は人文・社会科学の広大な領域をカバーしており、実際に行われている授業内容も多岐にわたります。私たち授業担当者の専門も多様ですが、それぞれの専門と教育理念に即してよい授業を提供しようという共通の志を持っており、その志に即して努力と工夫を重ねています。ところがかつては、私たちの側のこうした努力や工夫が、学生諸君にどの程度受け入れられ、どのような感想をもたれているかについて系統的に把握する機会がありませんでした。そこで昨年、その欠を補うべくA群講義科目および基礎ゼミ系科目のそれぞれ約半数において「学生による授業評価」を実施し、多くの学生諸君から貴重な回答を寄せていただきました（講義科目に関する結果は、本年2月に発表された『A群科目に関する「学生による授業評価」・報告書』にまとめられています）。今回は、さらに多くの学生諸君から、さらに多くの授業についての声を聞くために、昨年度対象とならなかった残り半数の講義科目を中心に、引き続き「学生による授業評価」を実施することになりました。諸君たちから寄せられる回答を熟読し、今後の授業内容の改善に役立てていこうと考えています。

通常の「学生による授業評価」は、あらかじめ設定されたいくつかの質問項目（たとえば「授業のわかりやすさ」「教室の設備」「教員の熱意」など）に関して学生諸君が（たとえば）5段階で評価するという方式で行われますが、私たちはそうした方式を採用しないことにしました。理由は単純です。今の段階では、学生諸君の生の声を聞くことが何より大切と判断したからです。あらかじめ質問項目を設定するためには、学生諸君がその授業に関して考え、感じている内容の範囲についてある程度知っている必要があります。私たちの手元には今のところ、その類の情報が十分には蓄積されていません。したがって無理をして質問項目を設定するより、学生諸君に日頃考え、感じていることをまったく自由に書いてもらう方が、諸君の「現実」をとらえる上では有益であると判断しました。

回答してもらう内容は二つあります。Ⅰでは、現在受講しているこの授業について、日頃考え、感じていることを自由に書いてもらおうと思います。Ⅱ（裏面）では、この授業に限らず諸君が現在受けているA群科目の授業全体についての感想、意見を記してもらいたいと思います。先に述べた趣旨が十分理解され、内容の濃い回答が寄せられることを期待します。

回答を書き込んだ用紙は、共通教育教務掛（共通教育棟1階）脇に設置されている専用ポストに入れてください。締め切りは、7月9日（金）午後5時です。なお授業を欠席して回答用紙を受け取らなかった人は、共通教育教務掛でも用紙を配布していますので、そこで受け取ってください。また自分の受講している複数の科目で回答を求められた人の場合、Ⅱはどれか一つの回答用紙における回答によって代表させても構いません。

無記名で回答してもらいますので、回答内容によって諸君たちに不利益が生ずる可能性は一切ありません。また今回の「学生による授業評価」は授業内容の改善のためだけに行われるものであり、回答結果が他の目的のために使用される可能性も一切ありません。回答していただいた結果は、後日何らかのかたちで公表したいと考えています。A群科目のより一層の充実のため、ぜひ回答にご協力ください。よろしく願いいたします。

平成 16 年度前期A群講義科目「学生による授業評価」

人間・環境学研究科全学共通科目実施委員会・文系群会

授業科目名 _____ 曜・限 _____

授業担当教員 _____

あなたの学部と回生を記入してください。 _____ 学部 _____ 回生

I 現在受講している上の授業について、日頃考えていること、感じていることを自由に書いてください。

II A群科目の授業全体について、考えていること、感じていることを自由に書いてください。

ありがとうございました。



平成 16 年度前期
A 群講義科目「学生による授業評価」
報 告 書

平成 17 年 4 月発行

編集 人間・環境学研究科全学共通教育実施委員会・文系群会WG

発行 京都大学共通教育推進部共通教育推進課

〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町 Tel 075-753-6690
